

## 平成22年度第3回（第15回）磯辺地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

**1 日 時** 平成22年10月4日（月） 10時～12時

**2 場 所** 磯辺地域ルーム（磯辺第一中学校内）

### 3 出席者

(1) 委員 21人

欠席3人：石塚副会長、木村委員、今井委員

(2) 事務局 高須課長、古舘主幹、加茂主査、安井主査補、松木主任主事

(3) 傍聴者 21人

### 4 議題

(1) 委員の交代について

(2) 教職員配置シミュレーションについて

(3) 小中学校の統合の順序・時期等について

(4) 次回開催日時・場所について

### 5 会議資料

(1) 次第と席次表

(2) 資料1 平成22年度に算出した推計による磯辺地区の小・中学校の状況<前回資料>

(3) 資料2 統合の順序等を考える際の論点<前回資料>

(4) 資料3 教職員配置シミュレーション

(5) 前回議事要旨

### 6 会議の概要

(1) 委員の交代について

磯辺二小の委員の交代について事務局から報告。

(2) 教職員配置シミュレーションについて

前回協議で提出を求められた教職員数を入れたシミュレーションについて、資料3「教職員配置シミュレーション」に基づき事務局から説明。

(3) 小中学校の統合の順序・時期等について

協議の結果、次の点が意見としてまとまった。

・子どもたちが2度の統合を経験することを避ける必要がある

また、次の点について、次回協議会で話し合い、意見をまとめることになった。

・シミュレーション4（磯辺一小・磯辺二小・磯辺四小）を小学校統合の組み合わせとして決定するかどうか

各委員はこれらについて所属団体に伝え、その結果を次回協議会で報告することになった。

(4) 次回開催日時・場所について

今回は平成22年11月15日（月）午前10時から12時、磯辺地域ルームで開催することとした。

### 7 発言要旨

(1) 委員の交代について

<事務局>

磯辺二小代表の平口雅美委員が体調を崩され、委員を辞められた。については、父母と先生の

会の大和田晴美会長から推薦された、磯辺二小適正配置委員である磯田康子様にも今後の委員をお願いしたい。(承認)

## (2) 報告

### 報告 教職員配置シミュレーションについて

<鳥越議長>

まず事務局に資料の説明をお願いする。

<事務局>

今回新たに配付した資料3「教職員配置シミュレーション」について説明したい。この資料は前回の協議の中で、教職員数を入れた資料の提示を求められたことから作成した。対象年度はシミュレーションできる一番遠い先、現在のゼロ歳児が小学校に入学する平成28年度とした。

○資料3をもとに、平成28年度の各小中学校の学級編制状況と教職員配置のシミュレーションについて説明

- ・一般的な県の教員の配置基準に基づいたシミュレーション。

(表側、小学校の状況)

- ・磯辺一小、特別な加配無し。
- ・磯辺二小、アミカケで示した第2学年に少人数学習指導教員の配置基準が適用され、教員が1名加配される。

※少人数学習指導教員：小学校の第1～3学年について、1学級あたりの児童数が36人以上になる場合に教員を1人配置するという市の基準。

- ・磯辺三小、全体で13学級以上となるので専科教員が1人配置される、特別な加配は無し。
- ・磯辺四小、特別な加配無し。
- ・仮に磯辺一小・二小・四小の統合校が出来ていた場合、全体で13学級以上となるので専科教員が1人配置される。アミカケは統合に伴う特別な加配で、1学級あたりの児童数が31人以上になる学年には教員を1人加配することから、全学年が対象になり6人加配される。

(裏面、中学校の状況)

- ・1段目、小中学校とも統合をせず、現在の学区のままの場合。
- ・磯辺一中、アミカケで示した3年生が1学級あたりの生徒数が39人以上になるので教員が1人加配され、3学級にすることが可能。
- ・磯辺二中、特別な加配無し。
- ・2段目左側の磯辺二中は、平成24年度の小学校統合に伴って高浜3丁目の生徒が全員高浜中に行った場合。
- ・2段目右側の磯辺一中、3段目左側の磯辺二中は、仮に磯辺一小・二小・四小の統合校が出来ていたときに、現在は磯辺二中に通っている磯辺4・5丁目の生徒が磯辺一中に行くとした場合。このときの磯辺一中が最大規模のケース。
- ・3段目右側の磯辺二中は、3段目左側から更に高浜3丁目も除いた場合であり、最小規模のケース。
- ・中学校は統合を行わないが小学校の統合に伴い学区が変更になる場合のシミュレーションである磯辺一中(最大ケース)と磯辺二中(最小ケース)の学校規模を比較すると、磯辺一中の方が大きくなり、現在の学区のままの場合と逆転する。
- ・4段目、磯辺一・二中が統合された場合。統合に伴う教員の加配は、中学校は学級人数に関わらず統合時から3年間、2人が加配される。

<鳥越議長>

この件について、ご質問はあるか。

<村上委員>

文部科学省から、来年度からの数年で小学校1～2年は30人、小学校3年～中学校は35人とする学級編制が示されているが、それが実施されると小学校・中学校とも、このシミュレーションよりも少し学級数が増えることになる。そういったことを念頭に置いて協議するのがいいだろうと思う。

<事務局>

文部科学省が8月27日に発表した「新・公立義務教育諸学校教職員定数改善計画(案)」は、現時点ではあくまでも案であり、決定したものではない。これが実施されるかは、今後の状況を注視する必要がある。

案の内容を一部誤解されているようなので正確に申し上げると、小学校の35人学級編制について、来年度の1・2年生から始まって、24年度に3年生、25年度に4年生と1学年ずつ順次進められ、27年度に6年生までが実施されるというもの。中学校については、26年度の1年生から始まって、小学校と同様に1学年ずつ進められる。すなわち、28年度の段階では、小学校・中学校の全学年で35人学級編制が実施されている可能性がある。また、この案では30人学級編制は29年度に小学校1年生、30年度に小学校2年生で実施となっている。

分かりやすい例を挙げると、磯辺三小の1年生は、資料1をご覧くださいと5月1日現在で70人・2クラスとなっているが、この後に2名転入があり現在児童数72人である。現行の基準では、72人の場合は2クラスとなる。これが、もし来年度に文部科学省の案が実施されて1～2年生が35人学級編制になると、2年生になるときに72人・3クラスになる。

資料3のシミュレーションで小学校を見ると、文部科学省の案が実施された場合に28年度は全学年で35人学級編制となるので、磯辺二小が2年生と4年生がそれぞれ1学級増えて学校全体で8学級、磯辺三小が6年生が1学級増えて学校全体で14学級になる可能性がある。磯辺一・四小は残念ながらこのシミュレーションの学級数のまま。一小・二小・四小の統合校については全体で2学級増えて19学級になる可能性がある。また、中学校についても同様に、1学級あたりの人数が35人を超える学年について、学級数が増える可能性がある。

繰り返しになるが、これはあくまでも案なので、現状は国の動向を見ている、ということになる。

<村上委員>

28年度のシミュレーションということだったので、そういう事情も頭に入れたほうがいいと思って発言した。今の説明でステップもよく分かった。

<竹内委員>

少人数学習指導教員の配置基準について、もう一度教えてもらいたい。

<事務局>

小学校1～3年生の1学級あたりの児童数が36人以上である場合に、その学年に1人、市費負担の非常勤職員である少人数学習指導教員を配置する。これは千葉市が独自に設けた制度である。小学校1～2年生は現在、実質的に36人学級編制も可能なので、最大36人である。例えば1年生で1学級あたりの児童数が37人になると、県の少人数加配教員を使って1クラス増やした学級数にすることも可能なので、1～2年生の1学級あたりの最大児童数は36人、その最大児童数にあたるには千葉市として特別に非常勤職員を配置しましょう、という制度があり、それが少人数学習指導教員である。なお、小学校3年生の場合は、実質的に38人学級編制なので、1学級あたりの児童数が36～38人である学年に1人配置される。

### (3) 議題

#### 議題1 小中学校の統合の順序・時期等について

<鳥越議長>

次に、議題（１）「統合の順序等について」。まず、論点１「子どもたちが２度の統合を経験することを避ける必要があるかどうか」について協議したい。事務局から補足説明はあるか。

<事務局>

特にない。

<鳥越議長>

論点１については、これまでの協議状況から、２度経験することは避けるべきとの意見が多いと考えるが、いかがか。

<橋爪委員>

個人的には２度経験することになっても仕方がない場合もあるのではないかと思うが、アンケート結果や他の方の意見等を伺うと、なるべくなら学校教育の中で混乱が起きることは避けるという意味から２度経験することは避けるべき、という意見が多いので、やはり１度に越したことは無いと思う。

前回の協議で順序・時期についてアンケートを取ってくるようになっていたので、磯辺二中の結果をお知らせする。

今回、３点アンケートをとった。まず、統合の順序や時期についての希望であるが、１年前に実施したアンケートの結果と比べて、若干、「小学校を統合した８年後に中学校を統合する」というものが増えた。これは我が子が在学中は変わってほしくないという思いが表れたものではないかと理解している。小学校にも子どもがいる保護者といない保護者に分けて統計を取ってみると、小学校に子どもがいない保護者に「８年後」というものが多い。特に中学１年生に子どもを持つ保護者に「８年後」という回答が一番多いが、入学して間がなく、中学校のこともよく分からないので、なるべくならこのまま卒業したいというところではないか。

次に、小学校の統合についてシミュレーション４をたたき台にすることであるが、９７％が賛成。反対の３％の中には「三小と二中が追い込まれているような分け方だ」「高浜６丁目だけを編入することに違和感がある」といった意見があった。

最後に、統合設置場所について、どういったことを基準に決めるべきか意見があれば記入を、という形でアンケートを取った。回答数が８５％だったが、そのうち三分の一以上の方がやはり通学時間を挙げている。中学生は２キロ程度であれば通える、大丈夫だとどんなに説明してもやはり気になるのは通学時間のようだ。というのは、統合場所は未定だと説明はしているが、磯辺二中の多くの保護者には“統合すると磯辺一中の場所になる”という思い込みがあるようだ。磯辺二中に通っている生徒は、磯辺地区だけではなく高洲高浜地区も多いので、「遠くなる」「部活動を終えた帰り道が不安だ」という意見が多いのではないかと考える。

<磯辺四小代表>

磯辺四小のアンケート結果を報告する。

９月初めにアンケートを実施した。回答者が１４３、回収率が７３％。

「２度の統合を経験することを避ける必要があるかどうか」については、「避ける必要がある」が７７％、「避ける必要がない」が１９％、「その他」が４％であった。

統合の順序については、「小中学校を同時に統合する」が４９％、「中学校を先に統合する」が３５％、「小学校を統合した１年後に中学校を統合する」が９％、「小学校を統合した８年後に中学校を統合する」が７％。ほとんどの保護者が「小中学校を同時に統合する」「中学校を先に統合する」という考えである。中には自分の子どもが卒業してしまってから統合するのではないかという危機感を持つ方もおり、早期の統合を望む声が多い。協議会の内容がなかなか保護者に見えてこないという意見もあった。また、「周りの真砂や高洲高浜が２３・２４年度に統合するのであれば、同じ時期に統合をすることが望ましい」という声も多くあった。

<鳥越議長>

ほかの学校はいかがか。磯辺一小から願います。

<磯辺一小代表>

磯辺一小では新しくアンケートは取っていない。

<磯田委員>

磯辺二小では7月にアンケートを実施した。「子どもたちが2度の統合を経験することを避ける必要があるかどうか」については、「避ける必要がある」が71%、「避ける必要がない」が14%、「わからない」が15%であった。他に統合の時期や場所についてもアンケートをしたが、その結果は後で報告する。

<竹内委員>

前回の報告の繰り返しになるが、磯辺三小では、「2回の統合を経験すること」については86%が「賛成ではない」と回答している。

統合順序だが、「小中学校を同時に統合する」ことについては42%が賛成。「中学校を先に統合する」は賛成29%、反対71%であり、中学校を先に統合することにはあまり賛同していない状況。「小学校を統合した8年後に中学校を統合する」ことについては66%が「賛成ではない」。「小学校を統合した1年後に中学校を統合する」は82%が「賛成ではない」。小中同時という意見が多いが、全体的に見ると「中学校を優先して」などといった中学校について推進する感覚はあまり持たれていないように感じる。

具体的な現況を知りたいという声がアンケートで6割近くあり、説明会を9月に2回実施した。そこでの意見については、また後ほど報告したい。

<吉田みどり委員>

磯辺一中では、今年度新たにアンケートは実施していないが、前回の結果では80%の方から「小学校・中学校とも同時に、早期の統合をお願いしたい」ということだった。

<鬼塚委員>

高浜二小では特にアンケートは取っていない。

<鳥越議長>

ほかには、よろしいか。

<事務局>

ひとまず論点1では、「子どもたちが2度の統合を経験することは避ける必要があるかないか」というところに絞ってはどうか。

<鳥越議長>

それでは、「子どもたちが2度の統合を経験することは避ける必要があるかないか」というところについて、協議会として意見をまとめたい。学校関係の皆さん、「子どもたちが2度の統合を経験することは避けるべき」という方、挙手をお願いしたい。

(7校の代表の委員全員が挙手)

論点1については、本協議会として「子どもたちが2度の統合を経験することを避ける必要がある」としたい。各委員については、このことについて所属団体に伝え、その結果を次回に報告願う。

次に、論点2「中学校の統合については、急ぐ必要があるのか、時間をかける必要があるのか」について。事務局から補足説明はあるか。

<事務局>

論点2については、別の観点から言えば「小学校の統合をいつにし、中学校の統合をいつにするか」ということ。中学校の統合については、千葉市の小中一貫教育の方向性がはっきりしてから考えればよいのではないか、との意見が村上委員から出されていたので、現状を説明したい。これも参考に協議を進めていただきたい。

- ・「千葉市学校教育推進計画」に示された「平成27年度までに小中一貫教育校6校を設置」という達成指標はあくまで目標値であり、決定事項ではない。市としては小中一貫教育のあり方を研究しているところである。
- ・小中一貫教育は施設一体型の「小中一貫教育校」だけではない。参考として、横浜市を例

に挙げると、横浜市が平成24年度から全小中学校で始めると発表した「小中一貫教育」は、あくまでも横浜市版の小中一貫カリキュラムに基づく小中学校間の滑らかな接続を目指すものであり、敷地や校舎を一緒にしたり、学区変更をしたりして一貫校化を図ることではない。更に横浜市では、小中学校間の距離にこだわる必要はない、と言っている。

- ・施設一体型の「小中一貫教育校」は、一中・一小の学区であって、且つ小中が隣接している、といった条件が整っている場合に設置しやすい。その観点では、千葉市内のほとんどの小中学校は立地に恵まれているとは言えない。したがって、千葉市としても横浜市で考えているような方向性も含めて、現在研究を進めている。

<鳥越議長>

それでは、論点2について協議をお願いします。小中学校の統合時期について本協議会としての方向性をまとめていきたい。

<竹内委員>

統合についての説明会を磯辺三小・二中合同で9月7日(火)と11日(土)の二回行った。中学校の統合について、通学時間、安全確保等に関する質問が出た中で、そもそも統合がなぜ必要なのかという意見も少なからずあった。「統合に時間をかけるべきかどうか」について行ったアンケートで「小中同時の統合」という回答が最も多かったという結果と矛盾するが、現実的に磯辺二中を見たときに、「本当に統合が必要な状況なのか疑問だ」「人数構成を見てもさほど急いで統合しなくてはいけないうちは思えない」という意見をお持ちの保護者は少ない。アンケートは「必ず統合する」という前提でお願いしており、その結果として「小中同時」という回答が多くなったと理解している。

説明会は磯辺二中と合同で行ったわけだが、「現状の二中を見ると統合が必要な状況には思えない」「高浜・真砂地区の統合で急かされている」という考えをお持ちの保護者が多いという印象を受けた。極端な意見だが、「磯辺一中・二中を比較したときに、一中の厳しい状況は分かるが、その一中を手助けするために二中が協力するように見える」という意見を言われた方もいた。磯辺二中は全国的にレベルが高いという意識がある保護者が多く、統合に反対されている方には「二中に通わせるためにこの地区に来たのに二中を無くさないで欲しい」という意見が多い。

磯辺三小としては、一中・二中の統合に関しては、場所の問題、距離の問題、通学路の安全性の問題、そういったところをきちんと議論していただき、統合して何も問題なくスムーズに行けるという確証を持った上で統合を進めていただきたい。これは先ほど橋爪さんも言われたが、どうしても保護者の皆さんは統合した中学校は一中の場所になるのかなという意識を持っている。その中で、資料を見ながら状況は理解しているつもりだが、距離的に遠くなる一中の場所になるのなら、安全性に関するハザードマップ(街灯の数や不審者数などをもとに危険地域を示す地図)でこの地域はまだまだ改善の余地がある、ハザードマップの色が赤からせめて黄色にならないと、なかなか賛同は得られないだろうと感じる。その辺りを詰めた上で、本当に統合していいのか、子どもたちをどうやって守るか、という議論が必要なのではないかと思っている。

<磯田委員>

中学校のことにしたが、打瀬地区の中学校の人数がかなり多くなっているという現状を聞いているが、川を挟んで打瀬の方から磯辺一中に受け入れるという話はあるのか。

<事務局>

このことについては磯辺三小の説明会においても同様の質問があったが、やはり安全性の問題で、花見川を渡って打瀬地区から磯辺地区に通学するということは基本的に考えていない。大地震があった際に、橋が決壊する等の恐れが無いとは言えない。打瀬地区の中学校は大規模化しているが、若干の増築等をすれば現状の中学校で収容しきれると考えている。なお、打瀬地区の一部の生徒が磯辺地区や真砂地区に通っているかもしれないが、特別な事情がある生徒

であり、あくまで例外的なものと考えていただきたい。

<吉田みどり委員>

先ほど、一中の厳しい状況を助けするために二中が協力するよう見える、という意見があるとの話を伺ったが、一中の保護者ではそういった意見は全く無い。一中は生徒たちも礼儀正しく真面目な学校で、先生たちも一生懸命指導してくださるところに満足しているが、生徒や先生たちの人数が少ないことによって、授業や部活動にいろいろな問題があることを切実に感じている。一中がどうということではなく、2校が統合することによって教育レベルを上げて子どもたちのために一番いい環境を整えていきたいと考える。一中と二中の生徒数に随分差があるような意見にも聞こえたが、今の時点で生徒数の差は49人ほどでそれほど差は無いと一中では捉えている。一中で困っているのだから二中でも同じように困っていることはあるだろうと思うので、二中さんの意見を聞かせてもらいたい。

<橋爪委員>

先ほど磯辺三小の竹内さんから二中の保護者の意見を代弁するようにお話いただいた。誤解の無いように一点だけお伝えしたいが、二中では、統合は決定している、ということはいろいろな機会に伝えているので、みなさんそのことは理解している。その上でアンケートに回答しているので、「8年後」という意見が増えたとも言える。現在の人数が適正ではないと認識を持っている保護者もいる、先生方の努力に支えられて活動ができていることも理解している、その一方で、あの人数だからこその教育があるという考えも保護者に根強く浸透している。

資料3について先ほどご説明があったが、「磯辺二中から高浜3丁目と現二中区の磯辺4・5丁目を除く」シミュレーションでは、仮に35人学級編制になった場合には8学級で、現在の9学級とほぼ変わらない学級数なので、これを見ると保護者はどう考えるのだろうかと思っている。これから子どもの数が爆発的に増えるとは誰も思っていないので、統合は致し方ないという認識はある。二中の保護者は統合することは頭では理解している。

<鳥越議長>

一・二中とも統合は急ぐ、という風に理解してよろしいのか。急いでもよろしいのか。

<吉田みどり委員>

一中は早期の統合を希望する（急ぐ）。

<橋爪委員>

二中は、統合は急がない。

<吉田みどり委員>

繰り返しになるかもしれないが、先生の数が少ないということについて、もう少し具体的に述べさせていただきたい。主要科目の国数英理社は各学年で1人ずつ、合計15人欲しいところだが、10人の先生で複数の学年を掛け持ちで授業している状態。一番わかりやすい例を挙げると、一中では教頭先生が、教頭としての仕事以外に、週7時間、社会科と数学を教えている（数学は専門外）。実技科目の先生の数で言うと、体育は男子が1人、女子が1人、音楽が1人、美術が1人、技術と家庭科の先生はゼロ。家庭科は体育と美術の先生が専門外で、技術は千葉市から派遣された大学院生が担当している。部活動は美術部が2人。野球部が6人で練習も、練習試合も出来ない。保護者によっては「入ればレギュラーだからラッキーだ」という方もいるが、真剣に取り組んでいるお子さん・親御さんにしたらなかなか実力がつかないということで、果たして部活動として成立しているのかと感じる。このような現状で、生徒・保護者に満足して魅力を感じてもらえるのかと思うと、磯辺地区の教育レベルというものを早急に考えて、充実した教育環境を整えてあげたいと思う。

<鳥越議長>

今の話に対して、他の学校から意見はあるか。

<橋爪委員>

切実だと思う。きちんとこういう状況も伝えている。協議会で出た内容は全て包み隠さず伝

えているし、今後も伝えていく。

<村上委員>

二中のアンケートについて、棄権した率はどのくらいか。

<橋爪委員>

今回は連絡網を使って提出を促して、回収率85%である。

<村上委員>

15%は回答していないということか。

<磯辺一小代表>

磯辺地区で小中ともに統合が必要である、ということが合意に至ったうえで話をしている、急いでほしいと現実にも思っている学校がある。具体的に“こういう理由があるから絶対に早期統合には賛成できない”というものが無ければ、早期の統合を進めるべきと思う。

<竹内委員>

それは違うだろう。統合は決定だが、時期はペンディングということだ。時期についての議論はしっかりしましょう、というところだ。

<水谷委員>

以前から、ずっと平行線だ。三小は三小の考えがあり、二中は二中の考えがあり、ここの二つは意見もアンケート結果も他とはかなり違う。いまお話があったように、一中・二中がもっと具体的に保護者だけでお互いの考え方を話し合う機会を作ってはどうか。小学校であれば一小・二小・四小の保護者だけで話し合いをしてみるとか、統合が進められそうな学校だけで話し合いをしてみるとか。もっと保護者同士で具体的に話をしないと、議論が進まないのではないか。我々は地域代表として中立な立場だから、こうして見ているが、保護者同士で話をしないと進まないように思う。

<鳥越議長>

いまの意見に対して、何かあるか。

<別所副会長>

この学校適正配置の協議会は、具体的にお子さんを預けている保護者の皆さんが中心になるのかもしれないが、“地域の学校”として地域で見守っていくという面もあるわけだから、保護者だけに任せるとするのは、私は賛成しかねる。また、確かに今の二中保護者の皆さんは学校レベルには満足しているようだが、その満足の前件になっているのは、高浜3丁目から来ているお子さんや磯辺一小の中の4丁目・5丁目から来ているお子さんなどの寄せ集めのような状態で、ある程度の規模を維持していることだろう。一小・二小・四小は1学年1学級という状況で、統合を早めてほしいという思いの中で、磯辺一小は学区で同じ中学校に行かせたいという保護者の強い思いもあり、仮に一小・二小・四小が統合されたときには、資料3の中学校シミュレーションの中段のように、二中の生徒数が一中よりも少なくなるという可能性もあるわけで、現在の二中の満足の前件条件が崩れてくる。実際に通っている保護者にはそういった状態が見えないということもあるのではないかと感じる。地域としてはそういうアンバランスな状態から、中学校は1学年4クラス5クラスある中で学校の適正な配置、先生方の配置ができるようにしたい。地域として統合を進めることで合意しているわけだから、温度差はあるだろうが、学校統合は進めていく立場でいきたい。保護者だけで話し合いを進めるというのは賛成しかねる。

<水谷委員>

ここではなかなか意見がまとまらない。こういう大きな場で話すと、本音が出ない。保護者の方だけでなく、ほかに誰かが、会長さんでも、教育委員会の方でも、出てもいいので、保護者が主体となってゆっくりお互いの気持ちを打ち明けて話す場を作らないと。この協議会では、アンケート結果はこうだった、といったように毎回同じような意見を聞いていると思う。統合をしたいという学校が集まってどんどん決めていかないと、話が進まないと思う。



<橋爪委員>

もしも保護者同士が話し合う場を持つのであれば、統合したいと思っている学校だけが集まるといったことだと温度差も出てくると思うので、ここに出席しているだけではない、保護者代表が複数集まって話し合うべきだと思う。

<水谷委員>

その辺りは、保護者の皆さんにお任せする。私が考えたのは、こういう場でないほうが、話が進むのではないかということだ。

<大浦委員>

これまでの話を聞いていると、二中の保護者は、一中に統合されるという前提条件のもとに考えているように思える。これがバックボーンになって消極的になっているので、これを解消しないとなかなか先に進まない。統合場所を一中・二中、それぞれにした場合のメリット・デメリットを話し合うべきではないか。そういったところを調整しないと、これは生徒の質とかではなく、ロケーションの問題のような気がする。二中の保護者は統合場所を二中にしてほしい、そういう意見のように聞こえる。

<吉岡会長>

場所の問題は言い出すときりがないと思うが。

<大浦委員>

二中が消極的なのは場所の問題なのではないだろうか。その辺りが我々からは見えない。

<吉岡会長>

ここで議論すべきは子どものためにどうすべきか、という教育の問題である。場所がどうというのではなく、子どもたちみんながよい教育を受けられる、そういうことを考えて話し合うべきだろう。本来受けられるべき教育を受けられない子どもがいるのであれば、早いうちにしっかりした教育を受けられる環境を整えてやるべきだろう。

<大浦委員>

今回の協議の問題だが、時期が先に来ている。その後に場所の議論になるのだろうが、場所を先に決めれば時期が決まるのではないだろうかとは感じた。

<竹内委員>

アンケートに記載されている意見を二つほど紹介させてもらおうと、「場所が磯辺二中なら大賛成だ」という意見が実際にあった。また、「統合によって本当に学力向上が確実にできるのですか?」というものがあって、そこが保証できるならいいですよ、ということだろう。

<橋爪委員>

確かに、みんなが「一中に」という考えがあることから「8年後」という意見が多くなったと思われる。何度も申し訳ないが、磯辺二中には高浜3丁目から通う生徒もいて、「高浜地区の統合後も高浜3丁目の子どもは磯辺地区の中学に通うことが希望があれば認められる」ということをこの協議会の中で認めたのだから、磯辺地区の中だけの議論ではなく、現一中区と現二中区の問題として考えなければならないと思う。もっと言えば、「磯辺一小の脇の運動場を中学校にしてもらいたい、企業庁に返還することは分かっているが、そういう希望が出せないのか」という意見が根強く残っている。

<事務局>

いま、中学校の統合時期をどうするかということで、一中と二中の立場が浮き彫りになったと思うが、小学校の統合とも連動する話なので、小中とも統合することについては合意しているわけで、小学校の統合についてみなさんどうお考えか。小学校の統合について、じっくり進めるべきか急ぐべきか、もしかするとそちらの方が合意に達しやすいのではないだろうか。小学校の統合時期が決まれば、「2度統合を経験することは避けるべき」ということから、中学校の統合時期も自然と決まってくるのかもしれない。

<鳥越議長>

中学校の統合について、一中は「小中同時に、急ぐ必要がある」、二中は「急ぐ必要は無い」という意見である。

このままでは同じところを行ったり来たりして、議論が進まないように思われる。事務局から提案があったように、シミュレーション4をたたき台としている小学校の統合について先にまず決めて、それから中学校の時期を議論することがいいのではないかと思うがいかがか。学校関係の方は、どうお考えか。

<磯田委員>

磯田二小は、統合は必要だが、統合時期については場所等の不確定要素を検討してベストな結論を目指すべきという意見がある。磯田一小の裏にマンション建設の計画があることから、平成24年度以降にマンション開発がどうなるかという状況を見極めて、ゆっくり考えてもらいたいという意見もある。もう一つ、もしも磯田一小に磯田二小・四小が統合される場合、二小学区で一番一小から遠い7丁目の端に住んでいる児童が1.5kmという距離を歩くことになる。自分の小学校5年生の娘にランドセルと荷物を持たせて二小まで歩かせたところ、30分かかった。小学校3・4年生では40～50分、1年生では1時間以上かかると思う。そのときによって重さは違うが、8キロ前後の荷物を持って、低学年のお子さんが一小までの道のりを歩けるかというのは疑問がある。病院通りも風や雨が強く、交通量が多いので、危険があるように思う。通えないお子さんがいるということを皆さんに理解していただきたい。

※磯田一小裏の運動場（磯田地区少年野球専用球場）は平成22年度をもって企業庁へ返却することが決定しているが、その後の用途については未定であり、現時点でマンション開発の計画はない。

<橋爪委員>

磯田二小と磯田二中の保護者が感じていることは似ているように思う。まだ決まっていないことに要らぬ心配をして一步先に進めない状態だ。場所ではない、教育を考える、ということは頭では分かっているが、場所が一番気になるというのは保護者の意見としては大半であり、それを置いては進めないのではないか。

<竹内委員>

統合が決まっている、という前提なので、保護者の気持ちが場所に行くのは避けられないだろう。場所が決まったらすんなり進むかと言えば、そうとは限らないかもしれないが。

<磯田一小代表>

逆に場所を磯田一中に決めたら、8年後どころか10年後、というアンケート結果になってしまうのではないか。それが分かっている場所を先に決めるのはどうか。

<橋爪委員>

場所が決まらなると議論が進まないというのが実感だ。

<竹内委員>

場所を決めて、準備期間にインフラを整えてもらう、こういう計画で安全性を確保する、という約束が教育委員会にできるか分からないが、通学路などの安全性などが確保できれば保護者の皆さんは安心できるのだろう。

<磯田一小代表>

通学路の整備などについては、統合準備会でやっていくことになっている。今の段階でそれをクリアしておかないと理解が得られないということか。

<竹内委員>

場所は仮決めでもいいが、仮に決めた場合にどういう問題が出るか、その問題に対してどういう対策をするべきか、その対策を埋める方法が全体でオーソライズされればその場所でもいいだろう、という判断がつく、そうでなければ別の場所となる。そういう議論が今まで無い。

<磯田一小代表>

その考えで行くと、仮決めとして、早期統合で話を進めましょう、場所も決めましょう、そ

れから出てきた問題は後から話しあいましょう、ということでもいいと思えるが。

<吉岡会長>

では、こういう学校の配置にしてほしい、という場所の話をお願いしたい。どの場所なら納得できるのか。

<竹内委員>

理想論でいえば、小学生であれば通学が道のりで1キロ以内、概ね20分以内で通える場所にあるべきだと私は思う。磯辺三小と、磯辺一小・二小・四小統合ということからずれるだろうし、実現できるかといえば厳しいだろうが、それが理想だ。中学校では2キロ程度で構わないと思う。ただ、安全に通学できるよう、安全性の確保は前提条件であると考えている。

<村上委員>

距離感は重要だと思う。適正配置の基準としては小学校の通学距離は概ね4キロ以内となっていて、それよりは近くなるのだろうとは思いますが、現実的に言うと今のような問題も出てくると思う。統合したときに、スクールバスを現実的に動かしてもらえるかどうかという話にもつながるのではないかと。スクールバスの可能性について、教育委員会に伺いたい。

<鳥越議長>

論点2については急ぐ、急がないということで話し合ってきたが、次回このような点を決めていこうということでまとめたいが。

<事務局>

本日は、中学校統合の時期を急ぐ／急がないとの磯辺一中と二中の意見の違い、磯辺二小からの小学校統合の通学距離の懸念、いろいろ意見が出た。

論点3については、シミュレーション4がたたき台のままだと、そこから進まない。小学校統合について「3校統合の場合、3校を一度に統合する、あるいは2校を先に統合する」「3校統合ではなく、2校統合する」といったことを今回話し合っていたかったわけだが、まず「小学校統合をシミュレーション4でいくのか、いかないのか。修正案があるなら何があるのか」ということを決めれば、そこから小中学校の統合時期や場所についても決められるのではないかと。

質問のあったスクールバスについてお答えする。千葉市は小学校4キロ以内、中学校6キロ以内という通学距離で学校を配置している。それを超えた場合には、中学校であれば校長が自転車通学を認めることはある。またスクールバスは現在千葉市では行っていないが、そういう議論もできるかもしれない。しかしながら、通学距離が小学校4キロ、中学校6キロを超えないときには、こういった対応は考えていない。

磯辺一小が統合校になると距離が遠くなるという、通学距離の話が出た。以前に資料を出したことがあるが、磯辺一小・二小・四小統合の場合、単に距離だけで言えば、真ん中に位置する磯辺四小の場所にするのが適当ということになるのだろう。

次回はシミュレーション4で進めるかどうかを議論していただき、場所的なものについては私どもで再度資料を作成して提出したいと思うが、いかがか。

<竹内委員>

場所の話で今思い出したのだが、「磯辺一中に小学校3校の統合校を置いて、磯辺二中を中学校の統合校にすると、小学校の通学距離のバランスが取れる」という意見を言った方がいた。

<池上委員>

真砂では今度の統合で中学校が小学校になると聞いた。磯辺一中を統合小学校にすれば距離的にみんなが通いやすいのではないかと。

<鳥越議長>

事務局から提案があったが、たたき台になっているシミュレーション4を小学校の統合パターンとして決定するかどうか、次回に議論いただいて決定したいと思う。全員が満足して結論づけることはあり得ないので、全体のことを考えて、ひとつひとつ決めていかないと進まない。

事務局、いかがか。

<事務局>

了解した。次回までに、磯辺一中を小学校にできるかについても調べてきたい。

## 議題2 次回開催日時・場所について

<鳥越議長>

次回の開催日時・場所を決めたい。今回は11月15日、月曜日の午前10時から12時まで、会場は磯辺地域ルームとしたいと思うが、いかがか。(異議なし)。

他になければ、これで議事をすべて終了する。

## (4) 諸連絡

<事務局>

○議事要旨の確認について、今までどおり、案を送るので確認をお願いしたい。

○次回協議会を欠席する場合は、事務局へ電話をお願いしたい。代理を立てることも可能だが、その場合は会長から事務局へ連絡をお願いしたい。

○今回は統合場所別の通学距離、磯辺一中を小学校にすることが可能か、という資料を整理したい。開発関係の懸念が出ていたので、開発の可能性に関する資料も併せて用意したい。

<鳥越議長>

企業庁の土地については、これまでも話が出ているが、それから変化は無いのだろう。

<事務局>

磯辺一小的の脇の運動場が最も懸念されているが、その場所は今年度中に企業庁に返還されることが決まっている。

<鳥越議長>

現在の企業庁の動きについて、磯辺地区で言わせていただければ、8丁目のバスの折り返し場についても処分は進んでいない。

<事務局>

その場所は第一種低層住居専用地域なので、仮に住宅開発があったとしても戸建てになるため、大きな人口増はないと思われる。

## (5) 閉会

<吉岡会長>

学校は親にとって一番大切な教育の場である。自分の子どもが立派に育ててもらいたいという思いが強いのはわかる。少々の距離があってもしっかりと教育を受けることの出来る学校に通わせたいというのが親の一番の気持ちではないかと思うので、皆さんにはぜひ、距離といった問題にとらわれることなく考えていただきたい。教育環境を整えるには、学校の生徒数がある程度必要だということだ。それによって先生が揃う、クラス替えによって沢山の友人と出会う、そういう学校環境を作るために、大同小異、小異を捨てて大同に就く、本当の教育とは何かということを考えていただいて、教育本来のことから外れることのないよう、みなさんには議論していただきたい。今後ともよろしくをお願いしたい。